

令和3年12月8日
気象庁地震火山部

配信資料に関するお知らせ

～日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の障害に伴う 緊急地震速報等への影響について～

気象庁は、国立研究開発法人防災科学技術研究所の協力を得て、同研究所が運用管理している日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の観測データを緊急地震速報や津波情報の発表に活用し、情報発表の迅速化を図っています。

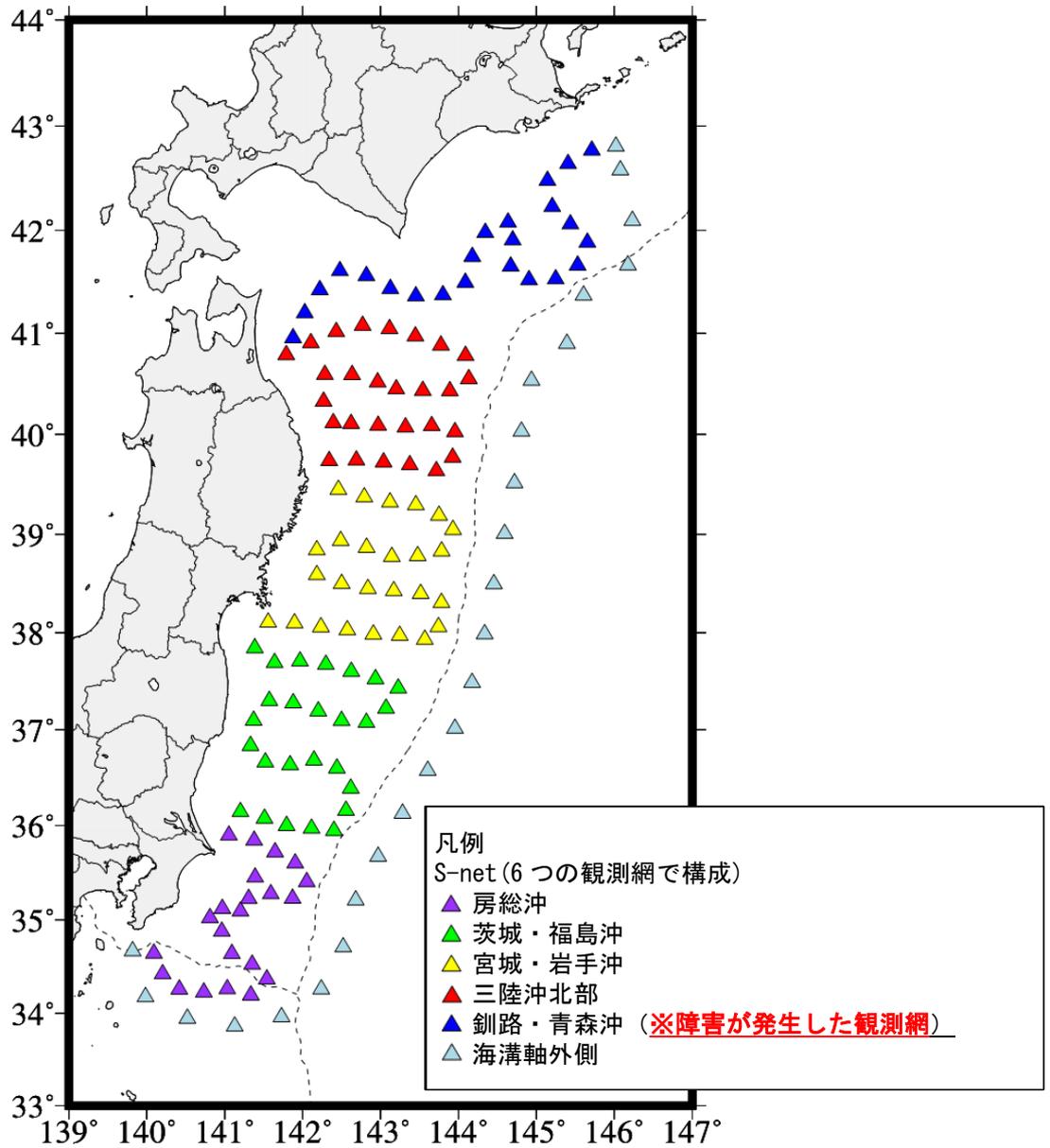
12月8日12時8分頃から、S-netのうち釧路・青森沖の観測点において障害が発生しています(別紙1参照)。

このため、当該観測点の周辺を震源とする地震が発生した場合、S-netのデータを活用することにより得られていた緊急地震速報の発表、津波警報の切り替え、津波観測情報の発表の迅速化や精度向上の効果が低減することが見込まれます(迅速化の効果については別紙2参照)。

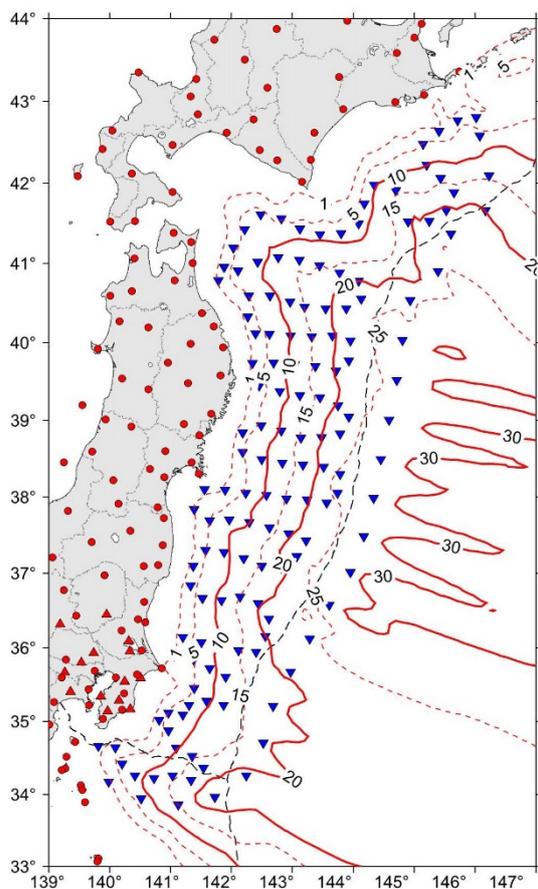
なお、津波警報(第1報)や地震情報の発表までにかかる時間及びその内容に影響はありません。

障害の原因については調査中ですが、復旧後あらためてお知らせします。

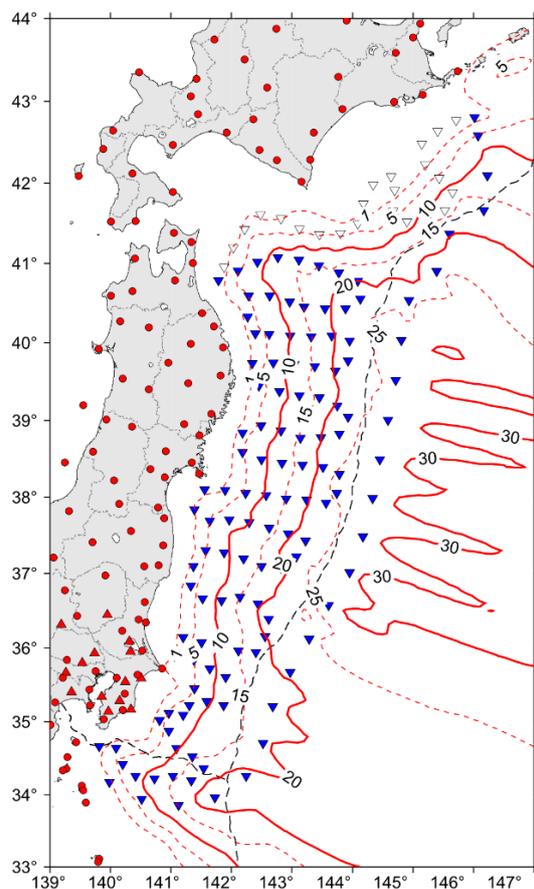
日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) の観測点配置図



S-net 活用による緊急地震速報の迅速化



S-net を緊急地震速報に活用した際に得られる緊急地震速報の迅速化の効果 (秒)



障害が発生している▽のS-net観測点(釧路・青森沖)が緊急地震速報に活用できない場合に得られる緊急地震速報の迅速化の効果 (秒)

各図中の値は、その地点で地震が発生した場合に、S-net を活用しない場合と比べて、緊急地震速報(警報)の発表がどの程度早まるかを計算した理論上の最大値(秒)を示す。